

平成20年度

が運動を表し

(木津川市の家計簿)



木津川市には、多くの会計(さいふ)がありますが、今回は市の会計の中で基本となる、もっとも大きな会計である一般会計の決算を中心に学校の授業形式で説明します。

登場人物



市立小学校の先生 きづがわいちろう 木津川 市郎先生

> 小学校6年生 きずなちゃん



もくじ

1時間目	収入のおはなし	1~2
2時間目	支出のおはなし	3~4
3時間目	平成20年度の主な事業	5~7
4時間目	貯金(基金)のおはなし	8
5時間目	ローン(市債)のおはなし	9~10
6時間目	健全化判断比率のおはなし	11
* *	データ矩	100.14

一時間目

収入のおはなし

── 平成20年度に入ってきたお金(収入)を家計簿やグラフにしてありますね。 「給与」が増えても、「貯金からの引き出し」や「親からの仕送り」も増えていますね。



232億2,018万円 (平成19年度 214億5,878万円)

収入の割合 決算額を人口1人あたりの 平成20年度の収入 家計簿にしてみると ローンの借入れ 収入(歳入) 平成20年度 平成19年度 40,365円(12.0%) 230,707円 224.608円 給与 親からの仕送り (市税、地方譲与税、 各種交付金、地方交 46,948円 (13.9%) 収入合計 付税、分担金及び負担 金、使用料及び手数 336,905円 貯金からの 給与 引き出し 貯金からの引き出し 18,885円 10,650円 230.707円 18.885円 (繰入金など) (68.5%)(5.6%)平成19年度の収入 親からの仕送り 46,948円 34,620円 ローンの借入れ (国・府支出金など) 41,471円(13.3%) 親からの仕送り 34,620円(11.1%) ローンの借入れ 40,365円 41,471円 収入合計 (市債) 311.349円 貯金からの 給与 引き出し 224,608円 10.650円 (72.2%)336,905円 計 (3.4%)合 311,349円



そうです。平成20年度は、平成19年度に比べ収入全体が8.2%増えています。

その中身を見ると、『給与』では、人口やお店が増えたことなどにより市税が増えたことや、他の市から頼まれた事業の実施による負担金や保育料が増えたことなどによって、昨年度より増加しています。

また『貯金からの引き出し』や『親からの仕送り』では、ローン(市債)などの繰上返済のために貯金を引き出したり、州見台小学校を建設したことによる国からの補助金や、生活保護などの扶助費が増えたことによる国からの負担金などが昨年度より増加しました。

注1:本来の性格とは異なりますが、身近な家計簿に例えるために「市税」や「地方交付税」 を「給与」に、「国庫支出金」などを「親からの仕送り」と表現しています。

注2: 家計簿の人口1人あたりの額は、決算額を平成21年3月31日現在の人口68,922人で除したものです。

市 税 89億4.506万円

市 民 税 ……木津川市にお住まいの方から所得などに応じて納めていただいた税金です。

固定資産税 ……木津川市内の土地や家屋などの固定資産を持っている方から納めていただいた税金です。

軽自動車税 ……バイクや軽自動車などを持っている方から納めていただいた税金です。

市たばこ税 ……たばこを買った方から納めていただいた税金です。

都市計画税 ……市街化区域内の土地や家屋を持っている方から納めていただいた税金です。

▶ 分担金及び負担金、使用料及び手数料 9億4,203万円

分担金及び負担金 … 特定の事業に必要な経費として負担いただいたお金です。

例:保育園の保育料

使用料及び手数料 ・ 市の施設を利用したとき、証明書類の発行を受けたときなどに支払っていただいたお金です。

例:体育館使用料、住民票交付手数料

▶繰入金 9億6,957万円

基金 (特定の目的のために積み立てておいたり、不測の事態に備えて積み立てておく貯金のようなもの) や、他の会計などから受け入れたお金です。

▶そのほか 6億6,904万円

財産収入 ····· 7,130万円 寄 附 金 ···· 1億1,369万円 繰 越 金 ···· 3億3,205万円 諸 収 入 ···· 1億5,200万円

▶ 地方交付税、地方譲与税、各種交付金 57億9,043万円

依存財源

自主財源

普通交付税 · · · 地方公共団体間の財政力格差を調整するため、国が算定した標準的な 支出が収入を上回る地方公共団体に交付されるお金です。

特別交付税 … 普通交付税に反映されない特別の事情による支出に対し交付されるお金です。

地方譲与税、各種交付金 … 国や府に納められた税のうち、法令により市に交付されるお金です。

)この普通交付 税と特別交付 税をあわせて 地方交付税と 言います。

▶国・府支出金 31億2,203万円

特定の事業の支出に対し、国や府から交付されるお金です。

市債 27億8.202万円

市の借金です。詳しくは9頁からの「ローン(市債)のおはなし」を参照してください。

普通交付税合併算定替とは?

旧町毎に算定した普通交付税の合計額と新市として算定した額を毎年度比較して、大きい方の額をその年度の新市の普通交付税額とする制度です。

木津川市では、この制度が最大で合併後14年間適用されます(合併から10年目以降は合併算定替額が一定率減額されます)。



平成20年度における合併算定替額は、普通交付税と国の地方交付税原資を補うために発行する借金である臨時財政対策債を合わせて、約12億円にもなります。

- 2 -

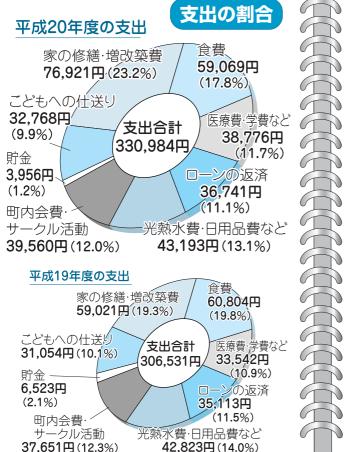


支出のがはなし

平成20年度に何にいくらお金を使ったかよくわかります。 「食費」と「貯金」が減って、「医療費・学費など」や「町内 会費・サークル活動」が増えていますね。また「家の修繕・ 増改築費」が大きく増えていますね。

平成20年度支出(歳出)総額

228億1,208万円 (平成19年度 211億2,673万円)



(決算額を人口1人あたりの家計簿にしてみると

,			
)	支出(歳出)	平成20年度	平成19年度
)	食費 (人件費)	59,069円	60,804円
)	医療費·学費など (扶助費)	38,776円	33,542円
)	ローンの返済 (公債費)	36,741円	35,113円
)	光熱水費·日用品費など (物件費)	43,193円	42,823円
)	町内会費・サークル 活動 (補助費等)	39,560円	37,651円
)))	貯金 (積立金、投資及び出資金)	3,956円	6,523円
)	こどもへの仕送り (繰出金)	32,768円	31,054円
)	家の修繕·増改築費 (普通建設事業費、災害復	76,921円 旧事業費、維持補修	59,021円
)		330,984円	306,531円



平成20年度は、平成19年度に比べ支出全体が8.0%増えています。

その中身を見ると、支出が減った項目は『食費』で、職員の退職などによって人件費が減ったためです。

また支出が増えた項目は、『医療費・学費など』や『町内会費・サークル活動』、『家の修繕・増改築費』です。『医療費・学費など』では生活保護や児童福祉、障害者福祉などの扶助費が増えたこと、また『町内会費・サークル活動』では民間保育園に対する助成などが増えたことが理由です。

また『家の修繕·増改築費』では、州見台小学校の建設(立替金の償還)や、本庁舎 建設の事業費が増加しました。

また『ローンの返済』の増加は、利率の高い市債などを繰上返済(公的資金補償金免除繰上償還制度を活用)したことにより増加しました。

40億7,116万円 **人件費**

市長の給料や市議会議員の報酬、市役所で働いている職員の 給料などを支払っています。

義務的経費 合計 92億7,594万円

▶扶助費 26億7.250万円

子どものいる方や高齢者、障害者の生活をサポートしています(例:福祉医療、児童手当、生活保護費、障害者支援など)。

- 25億3.228万円 借金(市債)の返済をしています。 ▶公債費
- 29億7.694万円 物件費

必要な物を買ったり、専門業者に仕事をお願い(委託)しています。 (例:消耗品費、光熱水費、電話代、業務委託料など)

27億2.659万円 補助費等

消防やごみ処理、病院などに必要な負担金や、市内で活動されている団体への補助金などです。 (例:相楽中部消防組合負担金、川城病院組合負担金、国際交流協会補助金など)

2億6.923万円 精立金

将来の大きな事業の実施に備えて貯金しています。 またふるさと寄附金などをご寄付いただいた方の指定の使い道に分けて貯金しています。

22億5.843万円 **| 繰出金**

特別会計に支出しています。特別会計には、国民健康保険特別会計、老人保健特別会計、後期高齢者医療特別会計、 介護保険特別会計、公共下水道事業特別会計、簡易水道事業特別会計などがあります。

● 普通建設事業費等 51億3.268万円 投資的経費

道路や河川、学校などの建設・改修に支出しています。また災害時の復旧工事に支出します。

▶そのほか 1億7.227万円

維持補修費 …… 1億6.887万円 投資及び出資金 …… 340万円

決算の結果(収支の状況)は?

2年連続で実質単年度収支が黒字となりました

実質単年度収支は、歳入歳出決算額に含まれている前年度の影響や翌年度への繰越、基金への積立、取り崩しな ど実質的に黒字や赤字の要素となるものを取り除いた収支で、一般的な家計簿での赤字・黒字の判断に近い形で表 現された収支です。収支には他にも、収入と支出の単純な差である形式収支、形式収支から翌年度に繰り越すべき財 源(20年度予算で実施すべき事業で、20年度中に完了せず20年度の予算で21年度に支払うべき金額)を控除した 実質収支、実質収支から前年度の実質収支を控除した単年度収支があります。

> 形式収支 4億810万円

(黒字)

(歳入決算額 - 歳出決算額)

実質収支 2億471万円 (黒字) 翌年度に繰り越すべき財源 2億339万円

(形式収支 - 翌年度に繰り越すべき財源)

前年度(20年度)実質収支 2億1,890万円

単年度収支 △ 1,419万円

(実質収支 - 前年度実質収支)

実質的に黒字要素のもの 1億8.437万円

(単年度収支+実質的に黒字要素のもの - 実質的に赤字要素のもの)

実質単年度収支 (黒字) 1億7,018万円



平成20年度の主な事業

平成20年度は、「未来の木津川市づくり」の基礎・基盤を固めていく本格的 な木津川市のスタートの年と位置づけて、限られた財源の中で最大限の行政効 果を挙げることを基本に予算編成されました。

特に、木津川市の特色を活かしたまちづくり、木津川市の一体的かつ均衡ある 発展を推進するため、内部経費の縮減に努め、新市基本計画に掲げられた方針 に基づき、以下の『9つの柱』の主要施策について、重点的かつ効果的に予算配 分が行われました。平成20年度の主な成果を紹介します。



- ① 旧3町の特性を活かした発展 ② 新しい市の一体性の確保 ③ 子育て支援No.1、教育環境の充実

- ④ 安心・安全なまちづくり
- ⑤ 福祉の充実したまちづくり ⑥ 環境共生型のまちづくり
- ⑦ 行政サービスの充実
- ⑧ 行財政改革の推進
- ⑨ 住民協働のまちづくり

① 旧3町の特性を活かした発展

■ 観光の振興、市の魅力発信

302万円

木津川市観光協会への補助、観光トイレの整備に向けた 準備などを行いました。

■ 農業基盤整備の推進

7.019万円

北綺田地区は場整備事業、木津かんがい排水事業を引き 続き進めました。



7億5.600万円



浄瑠璃寺前の観光トイレ

木津駅前土地区画整理事業において、物件の移転補償を行うとともに、耐震性貯水槽の設置や2街区函渠築造 工事などの整備を行いました。

② 新しい市の一体性の確保

■コミュニティバスの運行

9.500万円

交通空白地域の解消を目的にした「きのつバス」:「加茂 コミュニティバス」の運行を行いました。

また地域特性に応じた地域公共交通システムを構築する ため地域公共交通総合連携協議会を立ち上げ運営する とともに、公共交通だよりを発行しました。さらに「山城 地域(山城線・神童子線)」及び「当尾線」の社会実験運 行に伴い、時刻表やバス停標柱などの整備を行いました。



コミュニティバス山城線

■ 地域まつりの支援

300万円

木の津まつり、加茂まつり、やましろまつりの各実行委員会に補助を行いました。

■ 新庁舎の建設 14億5.474万円

市役所本庁舎は平成20年8月に完成、分散していた部署を集約し、9月から本庁舎としての業務を開始しました。

③ 子育て支援No.1、教育環境の充実

■ 国際交流の推進

1,858万円

中学生の海外派遣事業に対する国際交流協会への 補助や、市内中学校を中心に英語教育の充実のため語学指導助手招致などを行いました。

■ 放課後児童クラブの充実 9.954万円

市内12か所の児童クラブを運営する経費です。 対象学年を小学6年生まで拡大するとともに児童クラブの指導員を増やしました。



中学生の海外派遣

■ 民間保育園等への助成 5億1,661万円

国の基準により市内の民間保育園4園と市外保育園に児童の入所委託料を支払いました。 また民間保育園の運営や、延長保育などの事業に対し補助を行いました。

■ 福祉医療費(子育て)助成事業 1億5,339万円

小学校就学前の通院・入院及び小学校卒業までの入院にかかる医療費の助成を行いました。

4 安心・安全なまちづくり

■ 地域ぐるみでの子どもの安全確保

2,358万円

小学校への警備員の配置や新入学児童への防犯ブザーの配布、中学生の自転車通学用へルメット購入補助などを行いました。

■ 災害時における要援護者の台帳整備

126万円

災害時における地域支援のため、要援護者台帳の 整備などを行いました。

■ 準用河川の洪水対応能力向上 5.048万円

河川の流下能力を高め、浸水被害を軽減するため 準用河川井関川の改修を行いました。



通学路見守りボランティア

⑤ 福祉の充実したまちづくり

■ 生活保護費 4億5,663万円

国から委託を受けて行っている法定受託事務である生活保護業務において、生活保護扶助費を支出しました。

■ 児童手当 5億6.576万円

児童の健全な育成及び資質の向上を図るため、小学校修了前までの児童を養育する保護者に対して、児童手当の支給を行いました。

■ 障害者自立支援給付費等 5億1,034万円

障害者自立支援法に基づき、障害のある方への各種福祉サービス(施設入通所、ヘルパー等利用、自立支援医療、補装具など)にかかる費用助成などを行いました。

■ 障害福祉手当等 3,841万円

重度障害者への障害福祉手当の支給や外出が困難な方へのタクシー利用券の交付を行いました。

⑥ 環境共生型のまちづくり

■ リサイクル研修ステーションでの取り組み 236万円

こどもエコクラブの活動の支援や、リサイクルの実践に取り組みました。

■ ごみの減量化とリサイクル活動の推進 2,094万円

各種団体への古紙回収補助金交付や、雑草の堆肥 化に取り組みました。



リサイクル研修ステーションでの取り組み

⑦ 行政サービスの充実

■ 西部出張所の運営 346万円

住民票や所得証明書の発行など、利用度の多い窓口業務を行いました。 また土・日曜日や夜間業務も実施することで、本庁の業務時間にお越しになれない方などの利便性を向上させました。

⑧ 行財政改革の推進

■ 行財政改革推進委員会の設置

19万円

行財政改革推進委員会の運営にかかる経費を支出 しました。

■ 税収納事務の共同化 698万円

京都府及び府内市町村が税務関係事務の共同化に向けて取り組みました。



行財政改革推進委員会

⑨ 住民協働のまちづくり

■ 木津川市総合計画の策定

857万円

地方自治法に基づき木津川市としての今後10年間の計画(総合計画)を策定しました。

■ アダプト・プログラムの推進

170万円

アダプト・プログラムにご協力いただいている方々に 器材などを支援しました。

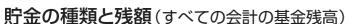




4時間目

貯金(基金)のおはない

木津川市全体では、どのくらいの貯金(基金)があるのですか。



(単位:	:万円)
------	------

V2 TT -2 1 T-12/C-12/C12/C2		
区分	基金の設置目的	平成20年度末残高
財 政 調 整 基 金	年度間の財源の調整を行うために財源を積み立てるための基金	350,369
減 債 基 金	市債の償還に関する財源を確保し、健全な財政運営を図るための基金	48,598
公共施設等整備基金	公共施設などの整備の円滑化と促進を図るための基金	492,092
準 財 産 区 等 事 業 基 金	財産区財産に準ずる財産の処分金を積み立てるための基金	93
地 域 福 祉 基 金	地域における福祉及び保健に関する事業の推進を図るための基金	58,611
農業振興関係基金	農業の振興を円滑に進めるための基金	1,325
土地改良事業基金	土地改良事業に充てるための基金	6,672
山城町森林公園施設整備基金	森林公園の管理の向上及び施設充実を図るための基金	1,133
育英資金交付基金	育英資金の交付に関する事務を円滑かつ効率的に行うための基金	3,370
ふるさと応援基金(新規)	木津川市応援のためにいただいた寄附金を積み立てるための基金	43
清掃センター建設整備基金(新規)	清掃センターの建設整備の円滑化と促進を図るための基金	10,000
国民健康保険特別会計財政調整基金	国民健康保険特別会計の健全な財政運営を図るための基金	69
国民健康保険出産費貸付基金	国民健康保険被保険者への出産費用の貸付のための基金	301
介護保険給付費準備基金	介護保険給付などの財源の不足が生じたときの財源を積み立てるための基金	30,725
介護従事者処遇改善臨時特例基金(新規)	介護従事者処遇改善臨時特例交付金を受入、適正に管理運営するための基金	3,288
簡易水道特別会計財政調整基金	簡易水道事業の健全運営を図るための基金	1,161
公共下水道事業財政調整基金	公共下水道事業を円滑に執行するための基金	1,274
水道事業財政調整基金	水道事業の拡張及び料金調整を円滑に執行するための基金	349,098
合 計		1,358,222

X	分	基	金	の	設	置		的	平成20)年度末残高
		公用もしくは	:公共用	月に供す	する土地	也又は2	く共の利	利益のために	計	141,793
土地開	土 地 開 発 基 金 取得する必要のある土地をあらかじめ取得することにより、事					ことにより、事	うち現金	463		
業の円滑な執行を図るための定額運用基金						うち土地	141,330			

木津川市には以上の種類の基金があります。基金には、特定の目的のために財産を維持し、 資金を積み立てているものと、定額の資金を運用するために設けられている資金又は財産が あります。平成20年度は、主に市債などの繰上返済や都市基盤整備、教育施設の整備のた めに基金を活用しました。

また、当初予算編成時には財源不足を補うために財政調整基金からの繰入金で収支のバランスをとりましたが、事業実施の段階での節約や詳細設計による事業費の減額、入札による減額などにより、最終的には財政調整基金の取り崩しは行っていません。





ローン(市債)のおはなし

新しい学校を建てたり、道路を改修したりするのにお金がたくさん必要ですね。

たしかに学校や道路をつくるには、多くのお金が必要になります。きずなちゃんが言うようにそれだけのお金を一度に払うのは難しいから、市はお金を借りて学校や道路をつくります。しかし、市がお金を借りる理由は、市のお金が足りないというだけでなく、もう一つ大きな理由があります。



例えば、図書館を建てる場合を考えてみてください。 お金を借りずに建設すれば今税金を納めている人の

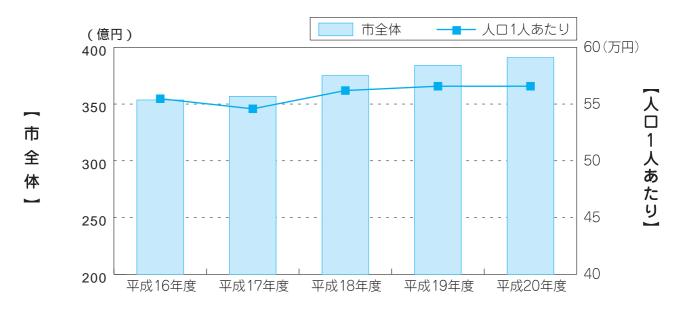
お金で建設することになります。しかしどうでしょう。この建設する図書館は 今税金を納めている人だけでなく、これから生まれてくる子どもたちや、ほか のまちから引っ越してくる人たちも使うでしょう。このようにいろんな人たち が使うことを考えると、図書館を建てるお金は、時間をかけて、多くの世代で負 担する方がよいのではないでしょうか。このようにお金を借りて図書館を建て、 その借りたお金を長い期間にわたり、多くの世代で負担することで世代間の 公平性を保っています。

■ 市債残高の推移

(単位:万円)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
一般 会計	2,229,895	2,247,354	2,403,331	2,495,671	2,568,048
公共下水道事業特別会計	1,181,709	1,198,747	1,226,506	1,223,999	1,222,687
簡易水道事業特別会計	18,103	17,976	21,054	25,063	36,956
水 道 事 業 会 計	106,258	104,521	100,114	95,583	81,471
合 計	3,535,965	3,568,598	3,751,005	3,840,316	3,909,162
人口1人あたり	55.6	54.7	56.3	56.7	56.7

※ 人口 1 人あたりの額は、市債残高の合計を各年度末の人口で除したものです。





たくさんのお金を借りていますが、大丈夫ですか?

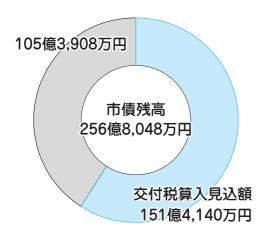
そうですね、借りたお金は利子も含めて返さないといけませんから、さっきの残高は元金だけですので、実際にはもっとたくさんのお金を返すことになりますね。しかし、木津川市では借金を減らすための取り組みもすすめています。

例えば、昔に借りた高い利率の借金は、返済期間中、高い利子を払わなければいけないことになります。そこで、この借金を今すぐ全部返すと、今後払わなければならない利子を払わなくてもよくなるとともに、市の借金の総額が減り、将来の負担も軽くなります。これを繰上償還といいます。

通常、国から借りた借金を繰上償還する場合は、将来の利子見合い分の補償金を払わなければなりませんが、平成19年度から平成21年度までの期間は一定条件を満たす地方公共団体に限り、この補償金が免除される「公的資金補償金免除繰上償還」という制度が利用できますので、木津川市では、この制度を利用して平成20年度に繰上償還を行い、将来支払う予定だった約2億3.274万円の利子を軽減しています。



■ 将来負担額にしめる交付税算入見込額(一般会計)



また学校の建設や道路の整備、市町村合併による事業など国が推進する事業などを実施するための借金には、その一部を国が地方交付税で負担してくれるものもあります。この制度を活用すると、実質的に木津川市が負担する借金が減ることになります。このように市が借金をする場合でも、将来的に市の負担が少なくなる制度をできる限り活用するようにしています。

木津川市は人口が増えているため、人口の増加にあわせてまだまだ学校や道路をつくるのにたくさんのお金が必要になると考えられます。このため「公的資金補償金免除繰上償還」制度など、国の支援制度を活用して、少しでも将来の負担を減らせるよう努力しています。

市債以外にも「債務負担行為」という将来にわたる負担もあります

市には、市債のほかにも、債務負担行為という債務もあります。

債務負担行為とは、契約などにより約束した将来にわたる負担のことで、木津川市では、学研都市における開発の一環として、都市再生機構が建設した学校などの公共施設の建設費を長期にわたり市が支払うことや、将来必要となる土地を土地開発公社が先行取得し、施設整備などの事業実施の際に市が土地の買戻しを行うものなどがあります。この債務負担行為も、市債と同じように将来の財政運営における負担となりますので、将来を見据え、都市再生機構への支払いを繰り上げて実施したり(繰上償還)、土地開発公社が所有する土地を買い戻すなど、債務負担の軽減に向け取り組んでいます。

○債務負担行為の内訳と平成21年度以降支出予定額

独立行政法人都市再生機構	都市再生機構が建設した学校などの公共施設の建設費	57億2,099万円
学研都市京都土地開発公社	土地開発公社が先行取得した土地の買い戻し費用	15億5,125万円
そ の 他	工事の請負、利子補給などにかかるもの	14億1,847万円
合 計		86億9,071万円

6時間目

健全化判断比率のおはなし

新聞などで、あるまちが財政健全化団体となったと 載っていましたが、どういうことですか。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、すべての市町村で、財政の健全度を示す「健全化判断比率」(「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「実質公債費比率」、「将来負担比率」、「資金不足比率」という5つの指標)を、平成19年度決算から算定・公表することが義務づけられています。

この5つの健全化判断比率には、それぞれに信号でいうところの黄信号である「早期健全化基準」と赤信号である「財政再生基準」が設けられています。





算定した健全化判断比率が一つでも「早期健全化基準」を超えると、自主的な財政の健全化に向け、財政健全化計画の策定が求められるなど、財政運営上、注意が必要な団体とされます。これが、財政健全化団体です。

また、算定した健全化判断比率が一つでも「財政再生基準」を超えると、財政再生計画の 策定が義務付けられ、国などの関与による財政再生に取り組むこととなるため、自主的な財 政運営ができない状況となります。これが、財政再生団体です。

健全化判断比率には、市町村が加入する一部事務組合や第三セクターなども連結して算定する指標もあるため、自治体全体の財政状況を示すものとなっています。

木津川市の健全化判断比率の状況を教えてください。

木津川市の健全化判断比率は次のとおりです。

	平成	平成20年度決算による健全化判断比率							
		早期健全化基準 (経営健全化基準)	財政再生基準	府公表による京都市を除く 府内25団体の状況	決算による 健全化判断比率				
実質赤字比率	_	12.81%	20.00%	実質赤字比率の生じる団体は ありません	- %				
連結実質赤字比率	-	17.81%	40.00%	連結実質赤字比率の生じる団 体はありません	- %				
実質公債費比率 (3ヵ年平均)	13.3%	25.0%	35.0%	木津川市は府内12位 (府内平均値13.7%)	13.7%				
将来負担比率	80.9%	350.0%		木津川市は府内10位 (府内平均値106.0%)	87.3%				
資 金 不 足 比 率 (公営企業会計)	_	20.0%		府内の8つの会計で資金不足 比率が生じています	- %				

- (注意) 1 実質赤字比率と連結実質赤字比率は、実質収支額が黒字の場合に、資金不足比率は、資金不足額が生じない場合には、 「一」で表示されます。
 - 2 連結実質赤字比率の財政再生基準は、新たな制度に対する経過的措置として、平成21年度決算までが40%、平成22年度決算が35%、平成23年度決算以降が30%となります。
 - 3 将来負担比率及び資金不足比率の悪化は、直ちに当該年度の財政運営上の問題とはならないため、財政再生基準は設けられていません。
 - 4 木津川市も加入する国民健康保険山城病院組合介護老人保健施設事業会計においては、資金不足比率(0.2%)が生じています。

木津川市の健全化判断比率の状況をみると、早期健全化基準を大きく下回っていますので、 健全化判断比率の上では、安心できる財政状況にあると思います。

しかし木津川市ではまだまだまちづくりにたくさんのお金が必要ですので、これに伴い新たな借金が増加することが予想されます。また、合併による普通交付税の特例(2頁の「普通交付税合併算定替」参照)を受けられるのは、合併後14年間ですので、このままでは、将来にわたり安心できる財政状況を必ずしも保つことができるとは言い切れません。

そこで、木津川市の健全な財政状況を保つためにも、木津川市では今後も更なる行財政 改革に取り組んでいきます。

「参考」データ編)

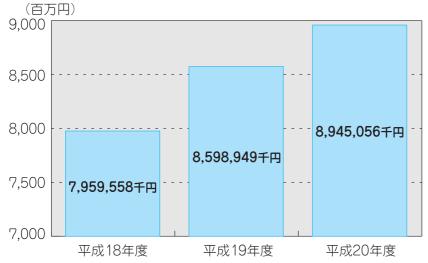
■ 一般会計歳入決算額の推移

合併後の木津川市の歳入決算額の推移です。平成18年度は合併年度であり、旧三町と木津川市の決算額の合計であるため大きくなっています。

平成20年度は、国庫支出金や繰入金の増加によって、決算額全体も大きくなっています。 (単位:千円)

項目	平成18年度決算額	平成19年度決算額	平成20年度決算額
市税	7,959,558	8,598,949	8,945,056
地 方 譲 与 税	609,720	232,754	224,046
利 子 割 交 付 金	50,599	69,101	55,801
配 当 割 交 付 金	44,127	52,482	24,040
株式等譲渡所得割交付金	44,355	38,499	8,891
地 方 消 費 税 交 付 金	476,106	486,382	465,543
ゴルフ場利用税交付金	91,705	91,228	89,360
自動車取得税交付金	171,462	164,356	131,904
地 方 特 例 交 付 金	228,808	53,717	157,042
地 方 交 付 税	4,163,809	4,770,546	4,624,722
交通安全対策特別交付金	11,373	10,814	9,080
分担金及び負担金	62,156	69,742	273,406
使 用 料 及 び 手 数 料	648,917	657,334	662,005
国 庫 支 出 金	1,537,981	1,222,120	2,093,143
府 支 出 金	1,030,495	1,075,762	1,035,107
財 産 収 入	95,096	60,132	71,636
寄 附 金	714,501	91,721	113,687
繰 入 金	1,578,836	506,199	969,569
繰 越 金	333,940	227,848	332,047
諸 収 入	1,441,555	120,848	135,418
市 債	3,483,400	2,858,241	2,782,026
合 計	24,778,499	21,458,775	23,203,529

■市税収入の推移



平成19年度から市税収入が大きく増加しているのは、三位一体の改革により所得税の税率を下げて住民税の税率が上げられたことによるものです。 その後も、法人数の増加や家屋新増築などによって、市税収入が増加しています。

■ 一般会計性質別歳出決算額の推移

平成19年度からは、市制施行によって生活保護などが市の事務となったことや児童手当制度改正により扶助 費が大きく増加しており、その後も増加傾向にあります。

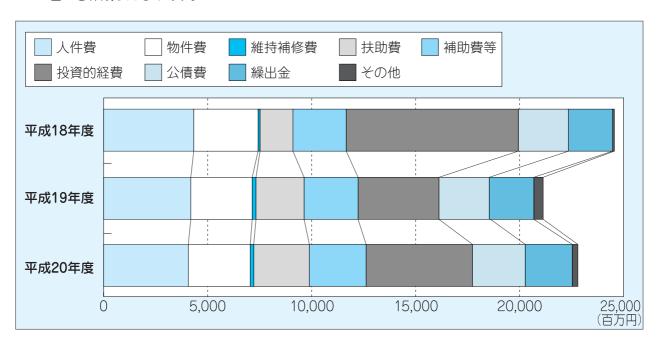
平成18年度は大型事業の実施が集中したため普通建設事業費が大きな額となっています。

平成20年度も本庁舎の建設費や州見台小学校建設費立替金の償還を行ったことによって普通建設事業費が大きな額となっています。また、高金利時代に発行した市債を繰上償還したことによって、公債費も増加しました。これらにより決算額全体も大きくなりました。

(単位:千円・%)

		X	分	平成18年	芰	平成19年度	芰	平成20年原	芰
科	B			決 算 額	構成比	決 算 額	構成比	決 算 額	構成比
1	人	件	費	4,331,418	17.7	4,190,735	19.8	4,071,161	17.9
2	物	件	費	3,093,519	12.6	2,951,470	14.0	2,976,944	13.1
3	維持	補貨	多費	94,890	0.4	181,736	0.9	168,867	0.7
4	扶	助	費	1,580,034	6.4	2,311,757	10.9	2,672,503	11.7
5	補助	費	等	2,562,382	10.4	2,594,953	12.3	2,726,592	12.0
6	普通建	設事	業費	8,236,363	33.6	3,884,045	18.4	5,114,467	22.4
7	災害復	旧事	業費	34,387	0.1	2,063	0.0	1,557	0.0
8	公	債	費	2,411,194	9.8	2,420,057	11.5	2,532,280	11.1
9	積	$\dot{\underline{v}}$	金	85,550	0.4	449,598	2.1	269,234	1.2
10	投資及	び出	資金	_	_	_	_	3,400	0.0
11	貸	付	金	200	0.0	_	_	_	_
12	繰	出	金	2,120,714	8.6	2,140,314	10.1	2,258,425	9.9
	歳出	合	≣ †	24,550,651	100.0	21,126,728	100.0	22,795,430	100.0

※「一般会計歳入決算額の推移」及び「一般会計性質別歳出決算額の推移」は、「地方財政状況調査表」に 基づき作成したものです。

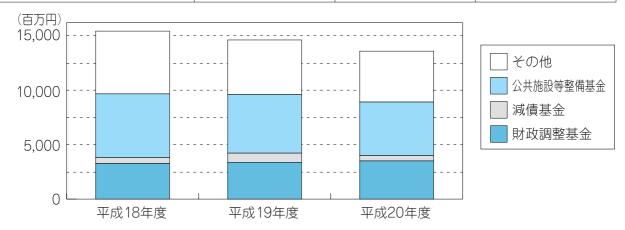


■ 基金(全会計)残高の推移(積立基金)

木津川市のすべての会計の基金残高(土地開発基金を除く)の推移です。

財政調整基金は、予期しない収入減少や支出増加に備えるための基金ですので、決算による剰余金の約半分を積み立てるなど、残高を維持するよう努めています。減債基金は、平成20年度に多額の繰入れを行い、市債などの繰上償還の財源としました。公共施設等整備基金は、まちの基盤整備に活用しています。 (単位:千円)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
財 政 調 整 基 金	3,263,746	3,379,383	3,503,686
減 債 基 金	539,927	841,301	485,981
公共施設等整備基金	5,854,858	5,393,533	4,920,923
そ の 他	5,764,488	4,996,594	4,671,624
合 計	15,423,019	14,610,811	13,582,214

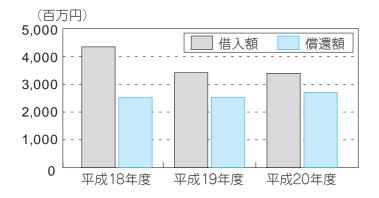


■ 市債借入額・償還額(元金)の推移(全会計)

木津川市のすべての会計の市債借入額と償還額の推移です。

毎年度、借入額が償還額を上回っていますが、木津川市では今なお人口が増加しており、今後のまちの発展にはたくさんのお金が必要になると考えられます。 (単位:千円)

	平成1	8年度	平成1	9年度	平成20年度		
	借入額	償 還 額	借入額	償 還 額	借入額	償 還 額	
一般会計	3,483,400	1,923,642	2,858,241	1,934,841	2,782,026	2,058,254	
公共下水道事業特別会計	819,700	542,109	505,600	530,670	481,800	494,912	
簡易水道事業特別会計	40,200	9,426	50,000	9,908	129,400	10,471	
水道事業会計	0	44,065	0	45,311	0	141,121	
合 計	4,343,300	2,519,242	3,413,841	2,520,730	3,393,226	2,704,758	





平成20年度

木津川市決算のあらまし(木津川市の家計簿)の発行にあたって

現在、地方自治体がおかれている状況は、本格的な少子高齢化や人口減少時代を迎え、 社会経済構造の変化に伴って税収の減少と医療費をはじめとする扶助費の大幅な増加が 見込まれ、極めて厳しい状況を迎えていると考えております。

また昨秋の米国発の経済危機による影響は、木津川市の市民生活にも多大な影響を及ぼしておりますことから、国の経済対策の交付金などを活用し、様々な対策に取り組んでいるところでございます。

このような社会情勢の中、全国的にも稀な人口が増加し続けている木津川市は、まだまだ成長過程にあり、都市基盤整備や教育施設の建設など、今後の木津川市の発展に欠かせない新しいまちづくりも進めております。

クリーンで誠実な市政の実行、積極的な情報開示による開かれた市政の推進は、私の政治理念でもあり、市民の皆様に木津川市の財政に関心を持っていただき、市民の皆様と共に考え、共に運営する市政の推進に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

この冊子では、平成20年度にどのような事業にどのぐらいの予算を使ったのか、また健全な財政運営に向けてどのように取り組もうとしているのかなど、学校の授業スタイルで市民の皆様に読んで頂けるように工夫を凝らしてみました。

木津川市の決算の結果につきましては、各種指標とも健全な結果を示しており、現在の地方自治体を取り巻く環境を考えますと、大変喜ばしいことでございます。しかしながら、これらの健全な指標も合併特例措置に依存しているのが実情であります。つきましては、これらのことも踏まえ、今後もこのすばらしい木津川市を健全な財政運営で、子や孫の代に引き継ぐためにも、『子や孫の未来につなぐ』を合言葉に、財政規律を重視し積極的な行財政改革を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続きまして市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

京都新港川市長 河井規子

